

人間社会研究科 指導計画

1.研究科概要	<p>《人間社会研究科 修士課程》</p> <p>■人間学専攻</p> <p>臨床心理学コース</p> <p>臨床心理学の専門家として様々な困難や苦痛を抱える人に寄り添い、社会に貢献できる能力を備えた人材を育成します。そのために必要な公認心理師、臨床心理士等の資格取得を目指します。</p> <p>人間行動学コース</p> <p>心理学と生命科学の専門的知識に基づく人間理解の観点から、社会の諸問題の解決に貢献する人材を育成します。</p> <p>言語聴覚コース</p> <p>「職能教育と学問の両立」を理念に掲げ、言語聴覚療法を人間学の上に位置付け、幅広いリベラル・アーツを備えた言語聴覚士の養成を目指します。</p> <p>■実践福祉学専攻</p> <p>高度な専門的知識の修得と実践知の理論化により、「人」と「社会」に対する深い洞察に基づく専門的倫理性を持ち、社会福祉の現場で必要とされる最新の各種援助技能等を習得し、指導・管理能力に秀でた社会福祉専門職業人を養成することを目的とします。社会構造の劇的な変化や不安定化に伴い複雑化する福祉問題に対して、その多様化・複雑化する問題を理論的に分析する力、実践現場と当事者支援に立脚した解決方法を導き出す各種援助技能の理論的知識の習得とその内面化、更に次世代の社会福祉組織における管理・指導についても最新の理論を習得しその実践を図ることができる力を涵養し、当該分野における現代的ニーズに応える、研究力を兼ね備えた専門性の高いソーシャルワーカーを育成します。</p> <p>《人間社会研究科 博士後期課程》</p> <p>建学の精神に基づいて人間を深く理解し人間尊重の立場に立った研究活動を行います。そのうえで、人間の精神と心理身体機能と社会行動とを総合的に考察できる高度の研究能力を持つ、臨床心理学をはじめとする心理学の専門家および神経科学、哲学などの研究者を育成します。</p>
2.取得可能学位	<p>修士（臨床心理学） Master of Clinical Psychology</p> <p>修士（人間行動学） Master of Human Behavioral Science</p> <p>修士（言語聴覚学） Master of Arts in Speech Pathology</p> <p>修士（社会福祉学） Master of Arts in Social Work</p> <p>博士（学術） Doctor of Human Studies (H28 入学生まで)</p> <p>博士（人間学） Doctor of Human Sciences (H29 以降～)</p>

3-1：指導計画 修士課程（博士前期課程）		社会人1年制短期コース	通常（2年） ※臨床心理学コース以外
審査種別：		修士論文・特定課題研究 ※コースにより異なる	
1年次	4月（入学）	研究科各コースとも年次の初めに、研究の内容に基づき、指導教員及び必要な場合には副指導教員を決定する。指導教員は大学院生と話し合って双方の合意のもと研究指導計画を検討する。	
	4月中旬～ 5月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員へ提出	
	7～9月	修士論文（特定課題研究）中間報告会へ出席	
	11月	様式、論文審査願の確認（MUSCAT） 主査・副査の決定（研究科委員会）	修士の研究に必要な知識の習得、文献研究、研究手法の学修
	1月	修士論文（特定課題研究）の提出	
	1月中旬～1 月下旬	最終試験	公聴会への出席
	2月下旬	公聴会	指導教員のもとで個別研究指導
	3月	修了判定（研究科委員会）	
	3月（修了式）	学位記交付	
	指導教員が継続的に、院生それぞれの研究の必要に応じて指導を行う。必要な場合は副指導教員を設定し、研究指導に当初から参加するものとする。指導教員、副指導教員が連携しつつ、入学当初から年限内に論文作成が可能となるように指導を行う。		
2年次	4月中旬 ～5月上旬		指導教員・題目届の提出 （MUSCAT） 学生→指導教員へ提出 倫理審査申請書(研究計画書を含む)を 作成・審査 ※倫理審査の提出時期については、研 究内容・コースにより異なる
	7～9月		修士論文（特定課題研究）中間報告 （コメントとりまとめ及びフィードバック）
	11月		様式、論文審査願の確認 （MUSCAT） 主査・副査の決定（研究科委員会）
	12月		修士論文（特定課題研究）の清書許可 の判定
	1月上旬		修士論文（特定課題研究）の提出
	1月中旬～1月 下旬		公聴会
	3月		修了判定（研究科委員会）
	3月（修了式）		学位記交付

	論文題目を5月までに提出し、研究の見直しを行った場合は、随時研究指導計画書を再提出する。指導教員が継続的に、院生それぞれの研究の必要に応じて指導を行う。必要な場合は副指導教員を設定し、研究指導に当初から参加するものとする。 指導教員、副指導教員が連携しつつ、入学当初から年限内に論文作成が可能となるように指導を行う。1月中に修士論文を提出し、2月上旬までに審査を行う。	
3-2：指導計画 修士課程（博士前期課程）	臨床心理学コース	
審査種別：	修士論文	
1年次	4月（入学）	研究科各コースとも年次の初めに、研究の内容に基づき、指導教員及び必要な場合には副指導教員を決定する。指導教員は大学院生と話し合っ双方の合意のもと研究指導計画を検討する。
	4月中旬～5月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員へ提出
	6～7月	修士論文中間報告会へ出席
	8月～2月中旬	研究法や統計法について講義やゼミでの指導を踏まえ、修士論文の研究計画の構築や文献収集を進める。 2年生の公聴会への出席（11月～12月に実施予定）
	2月下旬	修士論文構想報告会で研究計画の発表
	3月	指導教員のもとで個別研究指導
	指導教員が継続的に、院生それぞれの研究の必要に応じて指導を行う。必要な場合は副指導教員を設定し、研究指導に当初から参加するものとする。指導教員、副指導教員が連携しつつ、入学当初から年限内に論文作成が可能となるように指導を行う。	
2年次	4月中旬～5月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT） 学生→指導教員へ提出 倫理審査申請書(研究計画書を含む)を作成。その上で各自の研究・データ収集を進め、論文を執筆する。なお、コース内で研究予備審査を行い、研究課題の妥当性を検討する。 ※倫理審査については、研究内容により異なる
	6～7月	修士論文中間報告（コメントとりまとめ及びフィードバック）
	8～10月	修士論文中間報告でのコメントを踏まえて、研究の実施および論文の執筆。
	11月	様式、論文審査願の確認（MUSCAT） 主査・副査の決定（研究科委員会） 修士論文の予備提出 公聴会（12月に実施予定）
	12月	修士論文の提出許可の判定
	1月	修士論文の本提出 最終試験
	3月	修了判定（研究科委員会）
	3月（修了式）	学位記交付
	論文題目を5月までに提出し、研究の見直しを行った場合は、随時研究指導計画書を再提出す	

	<p>る。指導教員が継続的に、院生それぞれの研究の必要に応じて指導を行う。必要な場合は副指導教員を設定し、研究指導に当初から参加するものとする。</p> <p>指導教員、副指導教員が連携しつつ、入学当初から年限内に論文作成が可能となるように指導を行う。11月中旬に修士論文を仮提出し、11月～12月に公聴会を実施し、1月に修士論文の本提出と審査および最終試験を行う。</p>
--	---

3-2：指導計画（博士後期課程）

審査種別：		博士論文
1年次	4月（入学）	4月から5月初旬：研究の内容に基づき、指導教員及び必要な場合には副指導教員を決定する。
	4月中旬～5月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT通知）：学生→指導教員へ提出 指導教員との話し合いを行い合意のもと、修業年限内での論文作成が可能となるよう「研究計画書」を作成する。 指導教員は研究指導計画書の写しを大学院事務担当まで提出する。指導教員は入学当初から年限内に論文作成が可能となるように指導を行う。 研究計画書には、論文作成に至る系統的かつ具体的な計画を記載する。
	7～9月	中間発表 研究科において研究経過報告を行い、進捗状況を確認する。
	9月～2月	博士論文の作成に関わる論文執筆・プレゼンテーション方法などの指導
	12月～1月下旬	博士論文公聴会への出席（3年生発表の公聴）
2年次	4月上旬～5月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT通知）：学生→指導教員へ提出 指導教員との話し合いを行い合意のもと、修業年限内での論文作成が可能となるよう「研究計画書」を作成する。 指導教員は研究指導計画書の写しを大学院事務担当まで提出する。 1年次に作成された研究計画についての進捗状況を確認する。状況により研究計画の見直しを行う。加えて、学会誌等における学術論文の執筆および論文審査への対応について指導を行う。
	6～7月	研究科において研究経過報告を行い、進捗状況を確認する。
	9月～2月	博士論文の作成に関わる研究計画の実施やそれに関わる論文執筆・プレゼンテーション方法などの指導
	12月～1月下旬	博士論文公聴会への出席（3年生発表の公聴）
3年次	4月中旬～5月上旬	博士論文提出予定の届出（MUSCAT通知） 2年次までの学位論文指導の成果にもとづき、3年次の授業履修開始までに指導教員との協議を経て、計画書の確認と見直し等を行う。
	8月	博士論文提出案内 様式・提出日時等（MUSCAT通知）

～10月	これまでに助言、指導を受けてきた事項を十分に考慮し、学位論文提出期限までに学位論文の執筆を行う。また、学会誌/学術誌で採択された2本以上の査読付き学術論文が整っていることを確認する。
10月	博士論文の提出 主査・副査の決定（研究科委員会）
12月 ～1月下旬	博士論文の審査および博士論文公聴会における口頭試問
3月	修了判定（研究科委員会）
3月（修了式）	学位記交付